

明治史料館通信

1995. 1. 25 (季刊 年4回発行) Vol.10 No. 4 通巻第40号



競勢醉虎伝

大矢内竜吾

大蘇芳年画

(当館所蔵)

大矢内竜吾
善美をつくせし七堂伽藍、烏有に
罹りて尽く味方敗籍するに臨ミ、遁
れて再拳をはからんと翔りて天飛ぶ
雁鍋乃角に烈しく切戦なし、数ヶ所
の薄手を負ければ、是までなりと衣
服を脱し、寄手にまぎれて跡を暗ま
し、后年駿河の国に到り割腹なして
相果けり

ぬまづ近代史点描 ②⑤ 彰義隊の残党 大谷内龍五郎

明治二年(一八六九)時点における

沼津駐在の静岡藩役人名簿である『沼津御役人附』に、沼津勤番組十八番頼世話役として大矢内龍五郎(正しくは大谷内)のようである)という人物の名前が記載されている。

彼こそは、上野で奮戦し錦絵の題材にもなった彰義隊の勇士である。下総古河の生まれ、諱を幸重といい、元は撤兵隊の下士で、彰義隊では九番隊組頭だった。十八人いた兵隊組頭の一人である。上野戦争では両腕に貫通銃創を負い、牛込笹原町の自宅に潜伏した後、駿河(駿東郡玉川村農高田方)へ移住した。

「性豁達剛毅武を好み」という人柄で、沼津では紫糸で鬚を結び太刀を挟み、彰義隊の残党である二三人の壮士とともに他の移住者を睥睨するように傲然闊歩していたという。

大谷内とその同志らは、元彰義隊としての結束を強化するため盟約を定めた。しかし、明治二年十二月二十七日、盟約を破り藩の郡政役所に仕えようと

した者を一部の激昂した同志が暗殺するという事件が起きた。上香貫村で斎藤健三郎(金左衛門)とも、彰義隊では記録掛組頭)が、堂庭村で上野岩太郎が殺害されたのである。二人の首級は沼津勤番組之頭白戸隆盛の自宅玄関(郡政役所とも)に置かれ、天誅であると表示されたという。

その後、明治三年八月大谷内は山岡鉄舟の口利きで仲間とともに遠州牧之原に移り開墾方に所属する。しかし、仇討ちを望む斎藤・上野の遺族らに追い詰められ、同年十二月二十日首領としての責任をとり切腹し果てた。行年三十六歳。墓は島田市の医王寺にある。なお、斎藤健三郎の墓は沼津市の霊山寺、上野岩太郎の墓は清水町堂庭の蓮華寺に残る。

〈参考文献〉石橋絢彦「沼津兵学校沿革(八)」『同方会誌』48、大石貞男『牧之原開拓史考』、村上忠見「日本歴史最後の仇討ちは沼津在方仮寓の彰義隊の内紛が発端」『沼津史談』36、丸茂利恒「彰義隊戦争実歴鈔上」『同方会報告』4ほか

シリーズ
沼津兵学校とその人材

工部大学校への進学者たち

37



明治14年(1881) 工部大学校第3回卒業生
(『工部大学校史料』より)

① 白井藤一郎、② 真野文二、③ 永井久太郎

沼津兵学校の理工系における優秀さをその後も発揮した最良の継承者ともいえるべき存在が、工部大学校へ進学した人々である。

工部大学校とは、最初明治四年(一八七一)に工部省所管の工学寮として設立された工業教育機関であり、明治十年(一八七七)に工部大学校と改称、その後文部省に移管され十九年(一八八六)に東京帝国大学工科大学となるまで続いた。つまり東京大学工学部の前身にあたり、日本の近代化に貢献した多くのエンジニアを輩出した学校である。

土木・機械・造家(建築)・電信・化学・冶金・鉱山・造船の学科が置かれ、イギリス人ダイアーをはじめ優れたお雇い外国人教師が教育にあたった。

沼津兵学校なきあと上京し工部大学校に学んだのは、以下の顔触れである。

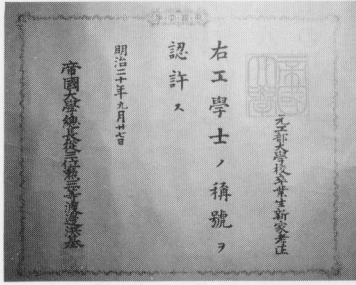
石橋絢彦 土木科第一回卒業生

(沼津兵学校第四期卒業生)

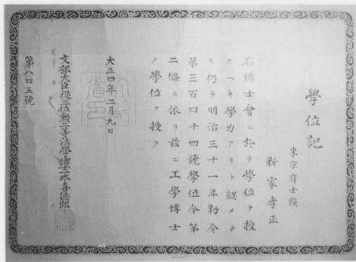
白井藤一郎 機械科第三回卒業生

(沼津兵学校第八期卒業生)

真野文二 機械科第三回卒業生



新家孝正の工学士学位記
(新家孝信氏所蔵)



新家孝正の工学博士学位記
(新家孝信氏所蔵)



羽山 荆子
(和多田寛氏提供)

(沼津兵学校附属小学校生徒)

永井久太郎 鉱山科第三回卒業生

(沼津兵学校第五期卒業生)

新家孝正 造家科第四回卒業生

(沼津兵学校第九期卒業生)

田辺朔郎 土木科第五回卒業生

(沼津兵学校附属小学校生徒)

小田川全之 土木科第五回卒業生

(沼津兵学校附属小学校生徒)

石橋は灯台建設の権威、白井は海軍の造船大監、真野は九州帝国

大学総長、永井は最初の女子留學生瓜生繁子の兄、新家は辰野金吾

らとならぶ建築家、田辺は琵琶湖

疏水の建設者、小田川は足尾銅山

の技師・古河財閥の重役としてそ

れぞれ知られる。白井と永井を除

く五名は工学博士になった。

なお、同じ静岡藩の静岡学問所

出身者では、三好晋六郎(機械科

第一回)・坂漣(機械科第二回)・

二宮正(化学科第二回)が工部大

学校を卒業した。さらに東海の一

小藩に過ぎなかった沼津藩から

も、杉山輯吉(土木科第一回)・辻

邑容吉(土木科第二回)の二名が

同校に学んだ事実が知られる。

明治二十一年(一八八八)から

三十三年(一九〇〇)までに七十

八名が工学博士を授与されたが、

うち五十五名(七十一%)が士族

であった(三好信浩『明治のエン

ジニア教育』。工部大学校に進学

した沼津兵学校・静岡学問所・沼

津藩出身者の存在も、日本におけ

る工業化の最初の担い手が彼らサ

ムライ・エンジニアであったこと

を示しているのである。

江原素八とその周辺<22>

羽山 荆子・江藤 寿子 母娘

『江原素六先生伝』(一九二三年刊)に、山中笑(共古)の談話が

以下のように引用されている。

羽山さんの母堂は確かバラさん

から洗礼を受けた人だと思ふ。

(中略)江原さんの宅に接近し

て住まつて居たので江原さんは

此人から能く教の話を聴いたも

のだ、(中略)江原さんは非常に

此人の人格を尊敬して居た。婦

人らしき婦人として常に称揚し

て居た。(中略)沼津教会の信者

で一人としてけい子さんに推服

して居なかつたものはなかつ

た。江原さんも信仰の事に就い

ては能く此人から励まされたり

又教へられたりしたものです

これは江原をキリスト教の信仰

に導いた人物として、羽山荆子と

いう賢婦人のことを紹介したもの

である。江原は彼女を婦人の亀鑑

として講演の中でよく紹介したと

いう。

羽山荆子は、御庭番として幕府

に仕えた和多田一夢の娘で、同じ

く幕臣羽山蝶に嫁いだ。維新後沼

津に移住したが、兄和多田直正は

沼津兵学校卒業生、夫羽山蝶は兵

学校体操方になった。

父一夢は幕末の初代新潟奉行川

村修就の息子であり、従つて荆子

の従兄弟には江原素六夫人縫子、

洋画家川村清雄、外山正一夫人房

子らがいた(系図は『沼津市明治

史料館通信』23を参照のこと)。

荆子は夫蝶との間に一男一女を

もうけたが、廃藩後陸軍に入った

蝶は西南戦争で戦死した。若くし

て未亡人となった荆子は立派に子

供を育て上げ、長男鏡吉は神戸で

明治三十六年（一九〇三）判子は神戸の鎗吉宅で亡くなった。五十歳であった。江原素六関係文書の中には、判子が江原縫子にあてた手紙が多数残る。

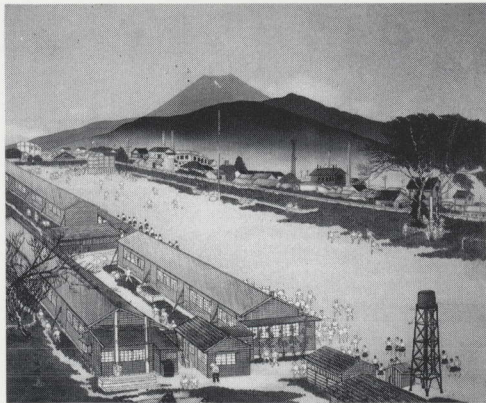
一方、判子の長女寿子（ひさ、一八七七〜一九五八）は、二歳年上の江原素六の長女夏子（なつ）とともに沼津高等学校、続いて静岡女学校（現静岡英和女学院）に学んだ。静岡女学校は邦語科を明治二十六年に第一回生として、英語科を二十八年（一八九五）に卒業した。三十一年には江原素六の媒酌で駿東郡金岡村の素封家江藤太郎（一八六八〜一九四二）に嫁いだ。江藤家は一家そろって江原のブレンともいふべき地域の有力者であった。林太郎も村長・郡会議員・県会議員などを歴任した名望家であり、寿子もその妻らしく金岡村の婦人会長を明治三十五年（一九〇二）から昭和十四年（一九三九）までの長きにわたってつとめた。

〈参考文献〉三枝基『聖女羽山判子』（一九四八年）、静岡英和女学院百年史（一九九〇年）他

お知らせ欄

◎企画展「校逸品 沼津市小学校資料展の開催について」

去る12月20日（火）から2月26日（日）までの開期で企画展「校逸品 沼津市小中学校資料展」を開催しております。地域とともに歩んできた長い歴史をもつ学校には、大切な宝物、誇るべき自慢の品、古い資料などがあります。今回の展示会ではそれらの品物を市内四十一の小中学校からお借りし一堂に集めて展示しました。自分の母校や住んでいる地区の学校にはどのような物があるのかを再認識

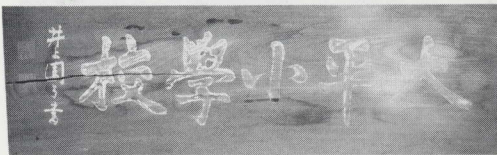


佐々木古枝 画
終戦間もないころの第一小学校
(第一小学校所蔵)

識していただき、また学校という場所に保存されてきた資料の豊かさに思いを新たにしていただければ幸いです。

◎沼津市明治史料館史料目録16の刊行について

『中沢田区有文書目録』、B5判三一九ページ、頒価二四〇〇円
中沢田自治会から寄託されている近世・近代文書の目録。歴代の区長が引き継いできた貴重な文書群です。特に昭和二十年（一九四五）八月以後の終戦直後の市役所通知など、他にはあまり残されていない稀少な史料が多く含まれている点に特徴があります。



井上円了書「大平小学校」板額
(大平小学校所蔵)

◎受贈図書を紹介

『日露戦争と井口省吾』（鈴木正二氏）、『川村清雄研究』（川村清衛氏）、『忘れまい沼津大空襲』第2集・第3集（高野八重氏）、『波濤を越えて』（浅田繁太郎氏）、『静岡県史』資料編21近現代六・資料編11近世三（静岡県教育委員会）、『仰高 創立五十周年記念誌』（沼津市立第四小学校）、『開校五十周年記念誌 千本』（沼津市立千本小学校）、『地方史静岡』第22号（地方史静岡刊行会）、『礎 杉山英男先生追悼文集』（川田弘氏）、『特別展馬と牧』（松戸市立博物館）、『岡宮の民俗』（沼津市史編さん係）、『静岡県歴史の道 東海道』（静岡県教育委員会）、『伊豆史談』第一二三号（辻真澄氏）、『歴史論叢』第3号（静岡県歴史研究会）、『山梨稲川と平田篤胤』（平野日出雄氏）
以上、最近受贈の沼津市関係。

沼津市明治史料館通信 第40号

編集 沼津市明治史料館
発行

〒40 沼津市西熊堂三七二一
電話 〇五五九一三三三三三五
FAX 〇五五九一五二二〇一八